

2015 年 7 月 3 日
山田光太郎
kotaro@math.titech.ac.jp

微分積分学第一講義資料 7

お知らせ

- 授業評価へのご協力お願いいたします。7 月 2 日 10 時現在 12/114。目標 90/114。
- 本日、中間試験の予告をいたします。

授業に関する御意見—授業評価から

- わからないものを質問するのが苦手なわたしにとっては、毎回質問をアンケート形式でとってくれるのはありがたいです。
山田のコメント：積極的に利用する人には便利かと思います。
- 質問用紙の必要性がわからない。回答もいちいち適当に感じる
山田のコメント：6 月 12 日の提示資料に次のような Q and A があります。
Q: なぜ質問を提出してもらいそれを公開するのか
A: わかったつもりにも「質問を探す」つもりで思い返すとわかっていないことがわかる、ということを経験してもらおう。
A: 意図が伝わるように質問の文章を書く、すなわちプレゼンテーション能力を身につけてもらう。
A: 受講者に何が伝わっていて、何が伝わっていないかを担当講師が知るための材料とさせてもらう。
A: クラスメイトの質問を読むことによって、自分の見逃していた点に気がついてもらう。
A: クラスのコミュニケーションの材料にってもらう。
回答が適当に感じるとしたら、それは「質問の意図が読み取れないから」あるいは「瞬殺で回答できる質問だから」ではないでしょうか。
- 教授が、数学において達成したい最終的な目標は何ですか？数学の教授になろうと思ったきっかけは何ですか？
山田のコメント：口頭でコメントします。

中間試験 FAQ

質問： 中間試験の目的は？

お答え： 最初の授業時間 (6 月 12 日) に口頭でお伝えしましたが、

- 受講者の皆さんがどの程度理解しているかを講師が把握する。
- 試験問題に関する講師の手の内を受講者の皆さんに晒す。
- 定期試験の成績が悪かった人を救済する材料にする。

質問： 中間試験の得点が科目の成績に占める割合は？

お答え： 講義資料 (1) から抜粋：成績は主として定期試験の得点で決めます。定期試験の成績があまり良くない場合に、中間試験および以下に説明する (説明略)「提出物」の成績を考慮します。

質問： 中間試験を欠席した場合は？

お答え： ● 事前に欠席がわかっている場合は、試験開始前までに、理由とともに山田まで電子メールにてご連絡ください。

- 事前に連絡できないやむを得ない事情がある場合は、連絡可能になってから速やかに山田までご連絡ください。
- 連絡なしにて試験を欠席された方は、定期試験を受験する権利を失います。
- 連絡をしたうえで試験を欠席された方は、定期試験を受けてください。その上で、中間試験にて救済する必要が生じる場合には、欠席の事情を考慮して判断します。

質問： 試験範囲は？

お答え： 主として 7 月 10 日までの授業で扱った内容 (試験予告参照)。「主として」というのは、いままでに学んだ数学的な知識を全く問わないわけにはいかないから。たとえば $\cos x$ の導関数が $-\sin x$ であることは授業では説明していないが、範囲外ではない。

質問： 試験問題は何問？

お答え： 問題の数が数えにくいので、お答えできません。少なくとも A4 用紙両面は超えません。

質問： 持ち込み用紙は今日配布したものでないか？

お答え： いいえ。講義 OCW や web ページにおいておきますので、それを印刷して使ってください。ただし

- 同じフォーマットの用紙を使ってください。サイズ、印刷されている内容は変更不可です。
- 持ち込み用紙に直接コピーをしたり、紙を貼り付けたりしてはいけません。

なお、持ち込み用紙は試験後回収いたします。

質問： 持ち込み用紙を忘れた場合は？

お答え： 提出する紙が 1 枚減りますが、とくに申し出ただけでなくても結構です。

質問： 定期試験も持ち込み用紙があるのか？

お答え： はい、あります。中間試験の答案を返却する際にお渡しします。